

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	従業員は就業前には理念の唱和を行い、業務に取り組んでいる。事業所のサービスは理念を基に展開させている。	開設当初からの理念「家庭的環境 尊厳保持 能力維持 医療支援 安楽 地域交流(要約)」を護るべく、ユニット内に掲示とともに朝・夕の申し送りで唱和することで、就業前に職員としての姿勢を確め、その理解と浸透に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加できるよう運営推進会議などで働きかけ、いきいきサロンや公園の清掃、地域の災害訓練、文化祭、秋祭りに参加させてもらい交流を持っている。	町内住民の代表者に班長も回ってくるなど、事業所も町内の一員として認知症カフェや食彩祭り、文化祭等様々な活動に参加・貢献している。またホームが開催するさとやま祭りは駐車場に櫓を組み、利用者・家族に町民も交じって地域の恒例行事にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域が事業所を大いに利用してもらい、また事業所も地域貢献できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進でいただく意見はとても参考になり、頂いた課題は次回に報告できるような取り組みをし、サービスの向上に心がけている。	会議は、校下3町の各会長と合同会長、老人会長、元利用者家族の民生委、包括、行政に、順送りの利用者・家族メンバーの構成で隔月開催。運営報告以外にも議題を設けており、今年度は同メンバーで身体拘束適正化委員会も立ち上げ、2回に渡り検討会を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃からわからないことは積極的に尋ね教えてもらっている。	市とは運営推進会議で運営状況を報告し、制度改定なども誤認無きよう確認を求め良好な関係維持に努めている。身体拘束適正化委員会の立ち上げも市の通達で実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修を行い啓発に努めている。身体拘束廃止委員会を設置し、毎月のケアを振り返り、ミーティング内で予防を働きかけている。普段のケアの際にも拘束にあたらぬ職員間で検討している。	ホームの委員会活動に身体拘束と虐待防止委員会もあり、全職員を対象にした毎月の研修会に同委員会主催研修も加え、適正知識や技術向上を習得する機会にしている。施錠は夜間のみ。不安定な利用者と夕方散歩に出るなど、寄り添うケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を行い啓発に努めている。虐待防止委員会を設置し、毎月のケアを振り返り、ミーティング内で防止を働きかけている。毎日の申し送りの中でも虐待だったかもしれないと反省する事がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1年に1回学ぶ機会は設けているが、対象者がいない現状で活用はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解、納得していただけるよう丁寧に分かりやすく説明する事を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設け、意見の反映がなされるよう対応している。意見が言いやすいように年に1回匿名でのアンケートを実施している。	利用者・家族には、外部者に直接意見や要望を表せるよう順送りで運営推進会議に参加頂いており、質問を数年置きに見直すアンケートも毎年実施し、訪問や電話・メール以外にも本音を伺う機会を設け、忌憚のない意見や要望を気兼ねなく受け取り改善に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の中からわき上がる提案は、事務局やリーダー会で検討し運営に反映している。	施設長と管理者は、運営や管理業務とともに現場にも入っており、職員の意見をいつでも直に聴き、年2回個別面談も実施している。職員の処遇や勤務シフト、福利厚生改善とともに、変化する利用者や家族の要望を第一に、柔軟な支援に皆で取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からあがる提案を聞く機会を持ち、即座に対応をしている。職員個々の状況を把握し、働きやすい職場環境と作るよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などの学びの場を積極的に提案し、個々に合わせたスキルアップを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小松市GH連絡会にて同業者との交流を通じた向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にはご自宅に訪問しご本人の思いをよく聴かせていただき、また快、不快を知るなど、ご家族にも教えてもらいながら安心してもらえるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前よりご家族の思いもよく聞かせて頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医師、看護師、ケアマネ、介護福祉士等相談しながら、ご本人にふさわしいサービスを見極め、必要時には担当者会議を開催している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が全てするのではなく生活を共にする一員として暮らしの中で出来る事は積極的にしてもらい、助け助けられての関係を築けるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な事でも嬉しい出来事や、現状を伝え、本人の状態や想い、サービスの方向性等を共有できるよう積極的に、ご家族に話しかける様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会いに来てくれる馴染みとは続いているが受身な現状のため、ホームとして利用者の馴染み発掘にも取り組む意向である。	来訪者には家族のみならず誰でも笑顔で出迎え、利用者の知人であれば居室やリビングでゆっくりお過ごし頂いている。いきいきサロンや墓参りなど、本人が望めば高齢者には行きにくい所でも職員数名で支援をしているが、外出困難な重度の方への支援は課題となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう努めている。ご利用者同士の関係性が出ており、お互いに支え合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係は途切れてしまっているのが現状のため、今後は改善への仕組みづくりの検討予定。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の「したい」を毎日の申し送りで共有し実現出来るよう検討し実施している。また毎月のミーティング、モニタリングで情報共有している。	買い物やドライブ、おしゃべり、テレビ番組等々思いや好きな事は、暮らしの何気ない行動や会話、家族からの情報も含めて記録するとともに職員間で共有し、職員会議でも検討し、その人らしく暮らし続ける支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族に聞きながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの現状を日々の記録に残しアセスメントし、毎月のミーティングでモニタリング、情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者さま担当がモニタリングを行い、毎月のユニットミーティングで全体で検証している。また、関係者が集まり担当者会議を開催し検討、作成している。	計画は、楽しみをアセスメントするために都度改訂している「専用シート」を基に、本人・家族・主治医・職員で担当者会議を開き、目標・支援内容を具体的に明示し、本人の視点で本人が望む暮らしになるよう作成。毎月のユニット会議でモニタリングと情報共有をし、3ヶ月毎に更新。状態に変化があれば随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の担当が、ニーズ、実践内容をアセスメントし毎月のミーティングで報告し、モニタリング、情報共有し、計画の見直しや沿った実践に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われがちのため、さらに1人ひとりを支えるための取り組みにも臨む方針である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	上記同様、既存のサービスから広がりがあり、無いため地域資源の活用も検討。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の希望をまず第一にしているが、主治医を向出医院にした場合の特色もご説明し、ご判断を仰いでいる。	主治医を入居前からのかかりつけ医か、代表者経営の併設診療所にするかは、本人・家族の意向が優先される。毎朝代表者による訪問診療があり、早期異常の発見にもなっている。24時間対応で、利用者・家族のみならず職員にとっても安心な環境下となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日勤帯には必ず看護職員が配置され、関わりで得た情報や気づきを報告相談し、状況によっては主治医に相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には必要な情報を提供し連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護を行う事業所であることから、もしもの時の話し合いを持ち、利用者や家族と方針を共有しながら個別対応で臨んでいる。	入居時に重度化や終末期の支援体制や方針を説明し、そうなった場合も併設診療所のバックアップや話し合いを重ね、状態推移によっては転居・入院・ここで看取りなど、本人・家族の意向に沿った支援をしている。看取りに向け家族の泊まり込みを支援した事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、本年度は地域の消防署の救命救急士から指導してもらい訓練を実施した。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時の対応は定期的にミーティング等で確認している。行方不明時の対応は定期的に確認しあい対応訓練も行っている。	症例毎のマニュアル、緊急連絡網を配備し、日頃も「ヒヤリ・ハット報告書」を回し気づきを共有。介護事故防止委員会や消防署員を招聘してのAED・救急救命の全員受講など、事故未然予防・再発防止に向け毎年取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関や介護老人福祉施設のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている。	医療機関には代表者経営の併設診療所があり、福祉施設とは地域包括がある介護老人福祉施設と緊急時受け入れ契約を締結しており、日頃も包括主催の研修や事例検討会等で交流を持っている。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	緊急連絡表を職員全員が持ち、緊急時には対応できるよう整備している。	夜勤者は両ユニット1名ずつの計2名。併設診療所も24時間体制で、何かあれば内線で夜勤看護師に連絡できるオンコール体制。居宅から徒歩で駆けつけられる職員も数名いる。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の災害避難訓練を行い、研修もしている。全職員が防災力を高める努力をしている。また、地域の要請やこちらからの働きかけで合同の訓練も行っている。	今年度は、夜間想定を主体に利用者も1階の方は駐車場へ2階は避難口まで退避する訓練を、運営推進会議メンバー参加と地元消防団主導の2回を開催し、独自に地震想定訓練も実施し、その評価で防災意識を高めている。	災害対策には限りがないため、施設内の突っ張り棒処置や備蓄防災品等の適切な配置場所の検討、及び地域住民や行政・警察署等へもホームの災害時対策への理解を求め、協力体制をより強化されていくことを期待したい。
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	防災マニュアルを整備し定期的に見直しもしている。また訓練の中で職員の役割も確認し体制の整備を図っている。	当地で想定される河川氾濫、地震、家事等の災害別マニュアル、業務でも使用できる米、飲料等の備蓄品、ガスコンロ、懐中電灯、ろうそく等、現実的な防災品をリスト化管理し随時補充している。定期防災点検、ライフラインリストも整備し、災害の備えとしている。	
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳とプライバシーの確保を心がけているが、介護者本位のケアになることもある。定期的に事例の検討を行うなど、サービスの質の向上に努めている。	ホーム内研修や委員会、申し送りや会議等折に触れ自分達のケアを省みる機会を持ち、丁寧な声かけ、耳元でのトイレ誘導、居室ドアの開閉等々、適切な接遇か否かを省みながら、利用者本位のケアとなるよう取り組んでいる。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位のケアを心がけ、必ずの意向を確認。自分の気持ちを表しづらい方へは選択できる問いかけを心がけ、決定して頂いている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日レクリエーションや外出があっても、「今日は何がしたい?」とお聞きし、回答次第では代案を提示するなど、本人の過ごしたい日に近づけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日その日の身だしなみは、なるべく本人に決めて頂いている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所全体の介護度が上がり、外出支援も困難なため一緒に楽しむことが少なくなっているのが現状。そのため楽しみにつながる工夫が今後の課題となっている。	献立は栄養士職員が立て業者配送食材だが、日曜には利用者とスーパーにも出向いており、自家菜園の収穫物や近隣からのお裾分けも多い。利用者にも無理のないように手伝って頂き、皆で作るおやつ菓子や外食の機会も多いが、ミキサー食や食事介助の方も多い。	楽しみにつながる課題のひとつとして、「美味しい？」より「美味しいね。」と、毎日利用者と職員と一緒に味わえる取り組みにも期待したい。
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は食事の状況を把握し、状況によって常勤の管理栄養士や医師、看護師と相談し必要な支援を行っている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立に向けた支援を行えるよう啓発しており、利用者の排泄の自立に対する意識とその症状に応じたケアが柔軟にできるよう取り組んでいる。	排泄管理で習慣を把握し、個々のタイミングや様子を察知しながらトイレ支援をしているが、オムツの方が一時的に紙パンツになったり、夜は日によってオムツ使用で安眠を重視しているなど向上と後退を繰り返しながら根気よく個々に応じた支援に取り組んでいる。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のパターンを把握し、一人ひとりに合った便秘予防に取り組み対応している。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	業務の都合で曜日や時間が決まりがちだが、入浴したいとの声には応えている。1人ひとりの希望になるべく応えられるよう取り組んでいる。	入浴は、日曜を除く毎日週2回以上を目安にご利用頂いている。柚子・菖蒲湯や入浴剤の工夫に加え、利用者も自分専用の洗髪剤や身体洗い品を持つ方が多く、湯加減や一番風呂等のご要望にも応えている。足湯も好まれ、ホームでも外出先でもくつろがれる方が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の休息や安眠できる環境を整える努力をしている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬を把握し、症状の変化を確認できるよう努めている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の「したい」を探り、実践できるよう支援している。また喜びとなる役割を持てるよう検討している。楽しみごと気分転換の機会を増やしていくことも今後の課題としている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望が表出しにくい現状。こちらからの投げかけで出かけたりして、お出かけの機会を増やせるよう努めている。	初詣、花見、散歩、スーパー、紅葉狩り、地域の催し物等々、ホーム行事として、個別の要望で、あるいは季節変わりを伝えるテレビや新聞を見て、勤務シフトを調整し車椅子の方も含めほぼ毎日誰かがどこかへ外出している。お墓参り希望の方に、急な山道の下調べからケアプランを立てて支援した事例もある。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じている。個人でお金を管理している人もいるが、日頃は事業所預かりで買い物時に財布からお金を払うこともある。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の思いを汲み、電話や手紙のやり取りを支援している。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、気温や湿度などに配慮し、居心地が良い空間を心がけている。また四季に合ったの飾りなどで、季節を感じてもらえるよう工夫している。	リビングにオープンキッチンがあり、利用者の行動範囲も広い。採光も良く、温湿度計でチェック管理をしながら窓開け換気や加湿器を使用して、快適な環境づくりに配慮しており、四季に合った飾り付けを利用者と作り、居心地よくなるよう皆で工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関など、主に過ごす場所から離れたところにスペースを設け、居場所づくりの工夫をしている。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1人ひとりの力によって居心地のよい部屋もあるが、空間作りに至らない部屋もある。ご本人や家族と相談しご本人の喜ばれる部屋を作りあげていこうと努めている。	居室は全室洋室で、電動介護ベッド・チェスト・床頭台・カーテンが備え付け。危険物以外の持ち込みは自由で、洋服掛け、小型テレビ・ソファ・冷蔵庫・こたつ、のれん、家族写真、大相撲番付表等々、それぞれ使い慣れた物や落ち着く物を揃え、居心地よく過ごされている。	
59		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	例えば洗濯機などは全自動で、利用者によっては使いにくい事もあり、その人に応じた設備環境も考えている。		